

別紙様式2

平成25年度「使える英語プロジェクト事業」公開授業および研究協議の要旨

市町村名 河内長野市

実践研究校名 西中学校・高向小学校・天野小学校

【三校合同公開授業】公開日：平成25年12月6日（金）（会場：西中学校）

対象学年：中学3年生・小学6年生・小学5年生

●西中学校1年

<p>(教材・教科書名) NEW HORIZON ENGLISH COURSE 3 (单元名) Unit 6 Break the Barrier 『20世紀のスター』～人物に ついて紹介しよう～</p>	<p>(本時の指導の目標) 紹介したい偉人について、聞き手にわかるように伝えることができる。聞き手はレポート発表を聞き、要点をつかむ。 ロビンソンの生涯に関する人物事典を読み、その具体的な内容を理解することができる。</p>
---	--

(本時の授業において工夫した点)

- ・スピーチ活動では、特に聞き手を意識しながらわかりやすく話すよう指導した。小グループで練習した後“the Best Speaker of Today”を選び、全体の前で発表するようにした。
- ・生徒にとって理解し難く、定着するのに時間を要す接触節や関係代名詞などの後置修飾の表現を、生徒が自然な文脈の中で活用し、理解が定着できるような場面設定を工夫した。

(授業後の振り返り)

- ・ゲームやクイズの場面では、生徒が楽しみながら積極的に発話する姿勢が見られた。
- ・生徒はおおむね内容の大切な部分を聞き取ったり、適切な英語で表現していた。しかし、スピーチをするときの態度についてより丁寧に指導する必要がある。
- ・形成的評価を取り入れることにより、活動の前半を振り返り、より改善しながら後半の活動へつなげることが大切である。

●高向小学校6年

<p>(教材・教科書名) Hi, friends! 2 Lesson5 (单元名) 「友だちを旅行にさそおう」 ～Let's go to Italy.～</p>	<p>(本時の指導の目標) 1. 自分の思いがはっきり伝わるように、おすすめの国について発表したり、友だちの意見を積極的に聞いたりしようとする。 2. 旅行代理店と客の立場で、おすすめの国について尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。 3. 世界には様々な人たちが様々な生活をしていることに気付く。</p>
--	---

(本時の授業において工夫した点)

- ・国際理解の観点から、外国のことについて調べる活動を取り入れたが、単なる国調べ・発表ではなく、自分が調べた、行きたい見たいところを友だちに紹介することによって、反対に他の友だちがどのようなところに行きたいのかを聞こうという意欲を高めるようにした。
- ・旅行代理店ゲームで、店と客とのやり取りを行う際に、「相手の目を見る」や、「ゆっくり、英語らしく発音する」、「ジェスチャーをしながらわかりやすく伝える」、「相手の言っていることを最後まで聞く」など、コミュニケーションの基礎を大切にしました。
- ・ゲームの前半が終わった段階で、店と客双方からよくできていたグループを取り上げ、全体の前で発表させた。
- ・国の紹介では、iPad を使って写真や言葉の紹介をおこなった。グループで作成している段階からよく協力して、楽しく取り組んだ。

(授業後を終えた教員の感想)

- ・今回の活動のゴールは、おすすめの国を紹介する活動であったが、児童は自分の伝えたいことをイメージしながら相手に伝えようとする姿勢を持つことができた。コミュニケーションの基本である「相手の目を見る」や、「ゆっくり、英語らしく発音する」、「ジェスチャーをしながらわかりやすく伝える」、「相手の言っていることを最後まで聞く」など、大変よくできていた。
- ・形成的評価を取り入れることにより、前半の活動を振り返るとともに、後半の活動への励みとすることができた。
- ・何より、ゲームが終わったときの児童の楽しそうな表情から、今回の活動が児童にとって積極的に取り組める内容であり、言語材料としても適切であったことがわかった。
- ・iPad を使ったゲームやプレゼンテーションは、児童にとって非常に興味を引く活動になった。言語活動への活用はこれからますます進めていくべきである。

●天野小学校5年

(教材・教科書名) Hi, friends!1 Lesson7 (単元名) 「クイズ大会をしよう」 ～What' s this?～	(本時の指導の目標) ある物の特徴を伝えたり、聞き取ったりすることで、その表現に慣れ親しむ。
---	---

(本時の授業において工夫した点)

- ・クイズ大会という場面を設定することで、“What' s this?” “It' s a ……” という表現に慣れ親しみやすくした。
- ・普段授業で使っているピクチャカードではなく、児童にオリジナルのピクチャカードを作らせることで、クイズ大会へのモチベーションを高めた。
- ・全員がヒントを出したり答えたりする場面を設定した。

(授業後の振り返り)

- ・クイズ大会で、自分のカードがいつ出るのかというのを楽しみにしながら取り組んで

いた。

- 疑問文 “Is it a ... ?” が児童にとっては難しかった。
- 言い方がわからないときに “How do you say ... in English?” と表現することができた。
- 自分自身も英語でコミュニケーションできるようにしていきたい。

【研究協議】

(テーマ) 意欲的に取り組む児童・生徒を育むために	(指導・助言者) 関西大学 大学院外国語教育学研究科 および外国語学部 教授 竹内 理 氏
------------------------------	--

【今日の授業に関して】

小学校：研修で提案したことが実行されていた。形成的評価（授業の真ん中で活動を止めてより良くするために教師がコメントをして活動を再開させる。）が実行できた。伝えようとする姿勢と聞こうとする姿勢はとても大切だが、それができていた。

中学校：挨拶をしてくれる中学生。こちらを見てきちんと挨拶をできるので英語でもできるのではないかと…
英語で何かを伝えようすることができる小学生が、思春期を迎えて人に接する恥ずかしさから、下ばかりを見てしまっているのはいたしかたないことで、残念であるが、何か一言、「相手の目を見よう」とか「顔を上げよう」などのアドバイスをするのも一つの手立てとしては良いのではないかと。

【学習意欲を高める 10 の提言】

- 外国語テスト成績において、動機付けは変動の 60% 勉強の仕方は 20%程度である。
- 動機付けを高めるためには→好奇心、切迫感、自己効力感、学習環境、利益や褒美
外発的動機付け→作業の終了が早まるが、言語能力につながらない。
内発的動機付け→学習時間は増加し、言語能力につながる。
- 動機を高める教師の行動
机間巡視（近づいて同じ目線で）をする。
遅刻をしない。
うるさい子をきちんと注意する。
テスト評価についてきちんと説明する。
個人の意見を聞き、名前を覚える。
段取りをよくする。
励ましの言葉（Splendid、Nice、Perfect、Never mind、Nice try）をかける。

➤ どうすれば動機が高まるのか？

① 汝、タイミングが大切と心得よ。

「教師」と「テスト」はトレードオフの関係がある。

勉強の導入やテストが終わった後に授業を工夫すると生徒の動機が高まる。

② 汝、能力に応じて対応を変えよ。

③ 汝、計画性を取り入れよ。

目標は明確に。方法は具体的に。目標はスモールステップで。

④ 汝、チャレンジの要素を取り入れよ。

簡単すぎると退屈する。

⑤ 汝、成功体験・承認行動を大切にせよ。

褒めるのはみんなの前で、ダメな場合は理由と改善策する。

⑥ 汝、テストや成績評価の方法を改善せよ。

問題を公表すると学習意欲が高まる。

⑦ 汝、仲間を忘れるなかれ。

ピアサポートの重要性、ライバルの重要性

⑧ 汝、振り返りを侮るなかれ。

グラフなどで可視化、形成的評価

⑨ 汝、自己学習を刺激せよ。

宿題や家庭学習の質や方法が問題になる。

⑩ 汝、学習方法を伝えることを忘れるなかれ。

実際に使わせることの大切さ

ゾルタンドルニエイ

My personal experience is that 99 per cent of language learners who really want to learn a foreign language will be able to master a reasonable working knowledge of it as a minimum, regardless of their language aptitude.